

発行責任者 柳 利夫

住所 東村山市萩山町5-6-26-301

Tel. 0423-92-8808

編集者 川村 英明

第16回秋季市民体育大会 テニス大会 男子シングルスの結果

9月15・16の両日109名のエントリーのもとでテニス大会が持たれました。両日共午前中は時々小雨のパラツク天気、試合の消化が心配されましたが、午後からは晴天も多くなり無事日程が消化されました。

今大会に多くの中学生(明学中学校)が参加して大人達を苦しめていたのがまず印象に残りました。市民テのエントリー数は24人で全体の約22%の参加率でした。参加率はほぼ例年並でした。一才棄権した選手は13人で約12%の比率でした。市民テでは2人の才が棄権しておりました。市民テの場合、棄権する場合は事前に連絡するよう心掛けて頂きたいと思います。

さて試合内容に若干触れておきます。まず全体的には消極的な守りの試合が多く見られました。これが中学生の中でも一つのパターンになっていたのには少々残念に思いました。今後まだまだ伸びる可能性を秘めている選手が、これでは先行き大きな希望が持てないのではないかと感じました。次に、サーブカとレシーブカが弱かったようです。サーブカとは必ずしもフラットでスピードだけを増すことを意味するのではなく、ダブルフォルトをしない、ねらった所へプレースメントできる、こういう総合力のことをさしています。レシーブも、サーブが悪いのだから攻撃に転ずるいいチャンスであるにもかかわらず、サーブにお手伝いして、唯相手コートに入れるにとどまっている選手が多く見られました。このような状態ですから、時間が長い(平均48分)にも拘らず単調な試合が多かったように思われました。

NO.8に残った選手を見ますと基本的には守りが中心ではありますが、チャンスに決め球を持って対処できる選手と、グランドストロークがフォア・バック共安定しており相手を前後左右に振れるような選手といえましょう。前者は積極的にネットにつきボレーで決める、弱いバックを強いフォアでカバーして試合を組み立てる、など自分なりに工夫をしていました。後者は、安定したグランドストロークを武器に相手を自分のペースに引き込み、相手ミス積極的に誘発するよう試合を運んでいたように思われました。

テニスはよく勝利の80%は相手ミスによるといわれておりますが、相手ミスの内容がどうかこれが問題です。今回の多くのように唯相手コートに入れひたすら相手がミスしてくれるのを待つ場合と、積極的に相手ミス誘うよう試合を選び、その結果おかし相手ミスとは同じミスでも内容は大変異っております。攻撃といえば強いサーブとそれにつづくネットプレー、それに強打というパターンを思い起しがちですが、これは攻撃の一つのパターンにしかならないことも忘れてはいけないと思います。ベースラインからの確実なプレースメント、スピン、スピードの変化、これを武器に相手の弱点をうまくせめるのも攻撃の一つのパターンといえます。市民テも個人がどのパターンを基本

にするかは個性などと合わせて決めるべきでしょうが、それにしても自分のテニスができるよう日頃から練習も心掛けたいものです。

< 試合の結果 > ○印は勝者

1 回 戦

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ○ 佐藤(庄) 3-8 長谷川(一般) | ○ 山本 8-4 尾沢(一般) |
| ○ 森(覚) 8-3 黒沢(緑風荘) | ○ 米原(勉) 0-8 町田(ク) |
| ○ 本保 8-2 中(一般) | ○ 米田(聡) 0-8 小湊(ク) |
| ○ 増沢 8-0 古永(清)(ク) | ○ 中根 8-2 鷺谷(明学中) |
| ○ 藤岡 8-2 渡辺(緑風荘) | ○ 矢守 8-0 米久保(明乳) |
| ○ 長井 8-3 椎名(一般) | ○ 岩立 4-8 河東田(福祉園) |
| ○ 米沢(後) def. 伊藤(隆)(ク) | ○ 亀村 def. 古永(捷)(一般) |
| ○ 新井(隆) 3-8 松尾(明法高) | ○ 桂 3-8 北内(日機装) |
| ○ 河野 3-8 根本(一般) | ○ 荒瀬 5-8 山口(忠)(明学中) |

2 回 戦

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ○ 武谷 8-2 高岡(グリーン) | ○ 吉永 8-2 坂上(明学中) |
| ○ 松井 8-4 中田(日機装) | ○ 山本 8-2 森(覚)(市民テ) |
| ○ 本保 8-2 春野(明学中) | ○ 増沢 8-7 坪谷(一般) |
| ○ 中根 1-8 中村(日機装) | ○ 藤岡 4-8 横山(明学中) |
| ○ 矢守 8-1 高橋(明学中) | ○ 長井 8-3 山口(一般) |
| ○ 米沢(後) 5-8 岩波(明法高) | |

3 回 戦

- | | |
|--------------------|------------------|
| ○ 武谷 8-1 吉永(市民テ) | ○ 松井 8-1 田中(明学中) |
| ○ 山本 6-8 伊藤(拓)(一般) | ○ 本保 8-3 福村(日機装) |
| ○ 増沢 1-8 伊奈(グリーン) | ○ 矢守 8-3 横山(明学中) |
| ○ 長井 8-7 河東田(福祉園) | |

4 回 戦

- | | |
|--------------------|------------------|
| ○ 武谷 8-1 松井(市民テ) | ○ 矢守 0-8 中村(日機装) |
| ○ 長井 3-8 古永(捷)(一般) | |

準々決勝戦

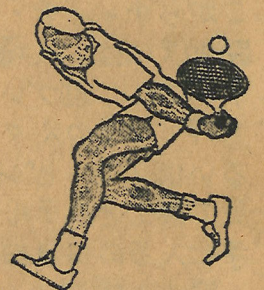
- 武谷 8-1 高野(明学中)

準決勝戦

- 武谷 (6-4) 伊藤(拓)(一般)

決勝戦

- 武谷 (6-3) 中村(日機装)



(裏面左下よりつづく) チケットがほしいのだと話すと、「とんでもない。無理な注文だし、プレミアムがどれぐらいつか知っているか。」との返事がかえってきた。

結局、センターコートの中あわせのNO.1コートの指定席券を1枚10ポンドで手に入れることができた。私の出発時(昭和48年6月)の1ポンドのレートは、685円70銭であったから、邦貨にして約7千円の投資になったわけである。

生まれてはじめて、私はだぶ屋から券を買うはめになり、それでもって、意気揚々とメイン・ゲートをくぐることができたのは、開門12時であった。(次号につづく)

私とテニス <連載 24>

5月1日号以来連載
NO.を間違えたので
訂正しました。

私のウィンブルドン紀行 ①

青葉クラブ 長谷川 順三

記念として集めたプログラム・コレクションの中で、特に大切にしている2冊のプログラムがある。

1冊は、THE LAWN TENNIS CHAMPIONSHIPS 1973 (WEDNESDAY 4th July NINTH DAY)=25ペンスの値段、もう1冊は、WIMBLEDON 1978 The Lawn Tennis Championships (Thursday 29th June Fourth Day)=1ポンドの値段のそれぞれのオフィシャル・プログラムである。前者は、私の海外研修旅行の際、とても観戦は無理といわれたウィンブルドンの第九日目の試合をくしくも観戦することができた記念に買いもとのめたもの。後者は、職場の同僚であり、かつ私にテニスを親身になって指導して下さったMさんが昨年観戦された時に、お土産にとくださったもの。

御存知のように争奪上のテニスの世界選手権といわれるのが、このウィンブルドン全英選手権大会である。大会期間中プログラムは、90ページ近くもある立派なものだが毎日、ドローを加えながら、会場の何か所かで売られ、表紙の色も毎日ちがう。

前おきが長くなったので、それでは今から6年前の私の思い出のウィンブルドン観戦記を御紹介しよう。

私のロンドン滞在先は、チャーリング・クロスから電車とバスで1時間ばかりの所、教会関係者の宿泊する所で門限も厳しいので、ロンドンの街なかでの夜遊びもままにならず、ロンドン市内に出かけるのは毎日通勤なみのパンクチャルなものであった。

7月4日(水)主目的のイギリスの学校見学も大かたすませたので、念願のテニスの聖地巡礼を果すべく早おき、会場目指して一目散。なにしろ英国人でも、そう簡単に入場することはできないといわれているのだから、入場券のない私にとっては、針の穴の中を通るラクダの如きもの。

便利で安い地下鉄を利用して、サウスフィールド駅下車。(ウィンブルドン駅まで行っては行きすぎになる。2つ手前のサウスフィールド駅がロンドンからなら便利。)駅前からスペシャル・コーチの専用バスを乗って乗車、5分ぐらいで正門からだいぶ手前で降ろされてしまう。そこからチャーチ・ロードを徒歩で会場正門前におかう。道路わきには、入場券を求める人々の長蛇の行列。大会もファイナルに近づいてくると、毎日ゲート前には徹夜組が列を作り、その人々は、折りたたみベッドにマットレス、あるいはスリーピングバッグ、カセット持参で3日間位は平気で路上をホテルにしてしまうそうである。勿論こうして手に入るのは自由席券。

路上の行列の人々を見て、これでは当日売りの入場券は、とても入手困難と判断、頂上を目前にして無念の涙にくれる登頂隊員の心境に通じるものを味わう。しかし、ここで引きさかたは、長年の夢も藻屑ときえさるのみ、妙案はないかとウィンブルドン史上に有名なドハーティ兄弟のメモリアルが刻まれているメイン・ゲート付近を右往左往するばかり。

ところが、「棄てる神あれば助ける神あり」の諺どおり、あまりくよくよする必要がなくなった。1人の英国紳士? が近寄ってきて私に話しかけながら、何やら紙きれを見せる。よく見ると、これが本日の入場券。彼の職業は、だぶ屋。千載一遇の到来とこのチャンスをのがさず、商談に専念。私は、本日のセンターコート(1面右下へつづく)

わが合宿記(その2 前号のつづき)

■ 本町クラブ 田畑 ヤイ子

この7月で入会してから丁度一年目。思えば去年の7月に入会した頃は、投げてもらったボールが全然打てなかったのに、一年目になると下手なりにボールはコート内に入るようになりました。中学、高校と卓球クラブに入り、あんな小さいボールが打てるのだから、テニス位簡単だろうと思入会させてもらいましたが、私の意に反しボールはどこかにとんでいくありさま。それに最近悪いフォームが身について悩んでいたのも、合宿に行けばなおせるのではなにかと期待して参加させてもらいました。

しかし、目的地に到着すると大雨。次の日も雨。掃る日になって青空が出てようやくのテニス日和。朝から、はりきってコートに出ました。この日の練習は、高いボールを出してもらい、高い位置のボールを高い打撃で打つ練習。後方では、武谷さんのアドバイス。武谷さんの指示通りに打つと、きれいにボールが返るのです。どうしてでしょうか。武谷さんにききました。「僕がやっているつもりで指示をするから、入るんですよ。ラケットを後方に引きすぎないようにテイクバックを小さくして、前に押し出すのです。」なんともっとも基本的な注意なのです。次の練習は、ポーチ、角度をつけて返すのですが、返すたびに、きまったり、コーチにナイスボールと声をかけられると、自分がすごく上達した感じになってしまいました。

短い練習でしたが、私なりに成果はあったと思います。武谷さんに注意された事は、肝に銘じてまず基本を完全に身につけて楽しく長くテニスをやって行きたいと思います。この合宿に参加して、本当に良かったと思っています。今後共、宜敷く御指導をお願いします。

■ 思多クラブ 松井 貞二

合宿期間中、雨に悩まされ、テニスコートでの練習は十分出来なかった。(しかし、流石テニキチの集まり、市民テの人達、三日間フルに練習した人いる?)

市民テの合宿も、今年で5回目だそうですが、私は初めての参加でした。市民テは、自主性を重んじ、民主的に協力しあって会員の技術向上と親睦を図るクラブであることが、合宿に参加して、改めて強く感じられました。合宿の企画から始まり、車の手配、運転する人、ミーティングやキャンプファイアの準備、それに合宿所の手配にいたる何から何まで、幹事の方々を中心に、みんなで協力して行なわれています。この事は、家族全員で参加した私達には、本当に良い経験になりました。

子供達は、子供達で自主的に生活した事も、有意義だったと思います。キャンプファイアの「5匹の子やぎ」は、チームワークのとれた見事な劇でした。また、夜のミーティングも、大きな成果の一つでした。今まで余り親しく話したことの無い人とも、なごやかに交流できましたし、参加者一人一人から率直な意見が聞けました。更に、市民テのクラス別練習についても、真剣な意見が出され、技術的な事だけでなく、精神的な面でも、考えさせられる事がありました。

心残りは、雨のため、十分練習が出来ず、自分の弱みを克服出来なかったことです。来年の合宿にも是非参加して実力を付けたいと思います。

終りに、参加された皆さんに、本当にお世話になりました。家族を代表して、心から御礼申し上げます。今後ともよろしく御指導下さるよう、お願いします。